Faculty Development

April. 2012 創刊号

自主創造 日本大学

日本大学 FD NEWSLETTER

CONTENTS

FD情報の発信の場として
――日本大学ＦＤ推進センター長挨拶 ―― 2

日本大学FD推進センターの活動体制 2

平成23年度全学FDセミナー
―― 教育力向上のためのFD講演会・FD事例報告会 ―― 3

“日本大学人”としての気風を養うために
――新たに『日本大学FDガイドブック』を発行 ―― 4

連載第1回
授業改善のための ティーチングティップスの収集と情報提供 4

学生の視点からFDを考える
――文理学部における学生FDチームの発足 ―― 4

〔Cover Photo〕
芸術学部写真学科の写真オリジナルプリントコレクションから，19世紀の歴史的オリジナル写真作品資料を閲覧しながら行う大学院芸術学研究科映像芸術専攻のゼミナール授業。（担当教員：芸術学部教授　高橋則英）

日本大学 FD NEWSLETTER
April. 2012 創刊号

FD情報の発信の場として ―― 日本大学ＦＤ推進センター長挨拶 ――

日本大学副総長
FD 推進センター長
小椰 治宣

昨今，入試方法の多様化や少子化の影響により，これまで以上に様々な資質の学生が入学してくるようになっています。大学は，教育方法の改善，教育力の強化が不可避となり，FDの重要度は増すばかりと言えます。

日本大学では，FD推進センターを核に，教育の水準を高めながら，学生の多種多様なニーズに応えるにはどうすべきか―― という課題に組織的に取り組んでいるところです。

これまで“課題別”に設定された5つのプロジェクト体制により教育力向上のための具体的な方策を検討してまいりましたが，平成24年度からは“機能別”に分化した3つのワーキンググループ体制に再編し，より効果的な活動体制を整えてまいります。その内容を各学部・短期大学部・大学院研究科等でFDを実践している方々に知っていただくことが重要であると考えております。

情報の共有化こそ，組織的な取り組みには不可欠だからです。また，各学部等でどのようなＦＤ活動が実践されているのかを知ることも，情報の共有化の一環として必要となってきます。

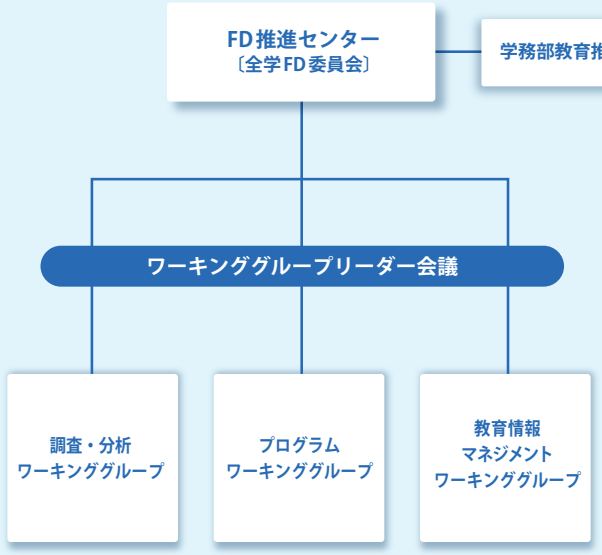
この「日本大学FD NEWSLETTER」を，そのようなFD情報の発信・受信の場，あるいは，学外の事例を紹介することで，FDの啓蒙の場ともしたいと思っています。皆様からの御意見・御報告などをお待ちしていますので，よろしくお願い申し上げます。

日本大学 FD 推進センターの活動体制

FD推進センターでは，全学的なFD活動の推進及び部科校におけるFD活動の支援を図るための具体的な施策を，効果的に検討，実施並びに検証することを目的として，平成21年10月から開始した5つのプロジェクト体制を見直し，下図のとおり，平成24年4月から新たに3つのワーキンググループ体制に再編することになりました。

当センターでは，各学部等から派遣された全学ＦＤ委員会委員の先生方の多大なる御尽力により，具体的な施策を検討・実施しています。本学におけるFDの定義にもあるように，「教員が職員と協働し，学生の参画を得ながら」諸策を展開できる雰囲気づくりも考えつつ進めてまいりますので，御理解と御協力の程，よろしくお願いいたします。

●日本大学FD推進センター　連携マップ



日本大学 FD 推進センター設置の目的

◎日本大学における FD 活動の全学的な推進
◎大学院，学部，通信教育部及び短期大学部における FD 活動の支援

➡ 日本大学における教育の質的向上を図る

活動体制再編のポイント

“課題別”に分化した5つのプロジェクト体制から，
“機能別”に分化した3つのワーキンググループ体制へ

◎機能が異なるワーキンググループ間での効果的かつ合理的な連携強化
◎ＦＤ推進センター全体でのマネジメントサイクルを高次元で維持・向上

➡ 体系的かつ継続的な事業展開を図る

新規事業（予定）

◎『全学教育論文集』（仮称）の編集・刊行
◎日本大学版ティーチング・ポートフォリオ（仮称）の普及とその作成を手助けするメンターの養成に向けた企画の実施
◎“学生参画型FD”の趣旨を捉えた諸行事の企画　ほか

平成23年度全学FDセミナー

～ 教育力向上のためのFD講演会・FD事例報告会 ～

平成23年11月5日(土)開催

昨年11月5日に日本大学会館大講堂において開催された「平成23年度全学FDセミナー～教育力向上のためのFD講演会・FD事例報告会～」の内容を紹介します。

セミナーの冒頭，吉野英治FD推進センター副センター長・学務部長より開会挨拶があり，現在のFD活動が従来の授業改善という狭義の概念から学務及び教育のほとんどすべてを網羅する活動に変貌しつつあるとの認識の上で「伝統的な正課授業ではなく，例えば，コース教育，初年次教育，入学前教育，そして国際交流教育などもその射程に入っている」と，現状を分析しました。

柔軟な教育改善・評価としての ティーチング・ポートフォリオの紹介

次に，東京農工大学大学教育センター教育評価・FD部門の加藤由香里准教授が「柔軟な教育改善・評価の手法として－ティーチング・ポートフォリオの紹介－」と題し，FDの義務化に伴い，形式化・儀礼化が進む中，教員の自発性・主体性を生かすツールとして注目されるティーチング・ポートフォリオ（大学教員による教育業績記録ファイル）を紹介しました。

ティーチング・ポートフォリオは，教員本人が作る，A4サイズ8～10ページの冊子で，自身の教育の「責任」「理念」「方法」「成果」「今後の目標」の5つの項目を記述した文章と，それを保証する資料を添付する構成で，毎年内容を見直して更新していきます。教員個人には教育活動を記録して振り返るための手段となり，組織には，個々の教員の優れた教育活動を共有することで教育の質的向上に寄与するとともに，教育活動を可視化させることで様々な視点からの教育評価を行う枠組みを提供します。ティーチング・ポートフォリオはICT等を利用することで，より効率的な情報共有並びに教員相互の連携強化が図れるようになり，組織的なFD活動への一つのきっかけとすることもできます。

セミナーの中ではミニワークとして，参加者がティーチング・ポートフォリオを作成する作業を体験し理解を深めました。

医学部における臨床研修指導医向けワークショップと 生産工学部における総合的なFD取組み事例

FD事例報告会では，最初に医学部の竹内仁教授が，「医学部におけるFD取組み事例（WS：ワークショップ）」と題し，「臨床研修制度の充実に向けた臨床研修指導医研修会」のワークショップを紹介しました。

これは医者が自分の専門分野にかかわらず基本的な診療能力を身につけることができるよう平成16年度から必修化された臨床研修制度に対応するため，指導医の教育プログラム作成能力や研修指導技法の習得を目標とするワークショップで，参加者は学生ではなく教員が対象となるものです。

具体的手順としては，グループセッションで臨床研修の問題点をKJ法で抽出し，それを全体でディスカッションして，対象となる病院を決めて研修目標を設定します。一般目標（GIO）を達成するための行動目標（SBO）を決定し，さらに評価法を決めて評価を行います。このフィードバックを検討し，最後は臨床研修改革の行動計画，対応策を作成します。この一連の作業により，理屈は理解しても実践が難しい臨床研修指導の問題の解決に役立てられます。

次に生産工学部の山川一三男准教授より，「生産工学部におけるFD取組み事例（授業評価・教育貢献賞等）」が報告されました。同学部では授業評価アンケート，FD講演会，教育貢献賞などを実施し，総合的なFD活動に取り組んでおり，平成23年度からは，新任教員FD研修会，同僚教員による授業参観も始めました。

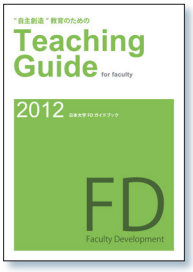
「授業評価アンケート」は平成16年度から実施しており，平成23年度前期は1千強のクラス，7万弱の学生を対象に実施しました。平成17年度からは授業評価結果に係る教員へのアンケート調査も行っています。これは授業評価結果をもとに教員が授業をどのように自己点検し改善を行ったのか，行おうとしているのかを調査することにより，教育改善方策の策定に役立てることを目的としています。

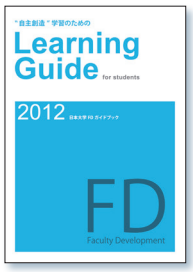
また，平成19年度からは「教育貢献賞」を実施しています。これは，教育活動情報のデータベース化，教育に関するインセンティブな取組みとともに教育貢献評価の定量化をもって実施する教育活動評価の一環として実施しています。

“日本大学人”としての気風を養うために ―― 新たに『日本大学ＦＤガイドブック』を発行 ――

ＦＤ推進センターでは，日本大学におけるＦＤ活動を更に全学的に推進し，学部等におけるＦＤ活動を支援するための具体的方策の一つとして，平成24年４月，新たに『日本大学ＦＤガイドブック2012』を発行しました。

『日本大学ＦＤガイドブック』は，教職員を対象とした『“自主創造”教育のためのTeaching Guide』と学部及び短期大学部の１年次生を対象とした『“自主創造”学習のためのLearning Guide』の２種類となっています。





これら２種類のガイドブックは，共に“自主創造”型人材の養成を目指し，日本大学の学生・教職員としての共通認識・理解が得られるよう，特に，初年次における学修・教育に焦点を当て，実質的に役立つテキストとなるように企画・編集しました。

『日本大学 FD ガイドブック』の特徴

- 「日本大学で教えるということ」・「日本大学で学ぶということ」で，“日本大学人”としてのアイデンティティーを定着させることを努めています。
- 大学での教育・学修に基本となる事項をわかりやすく紹介しています。
- あらためて大学・短期大学部で学ぶことの意義を捉え直し，特に，単位制の考え方やＧＰＡ制度の在り方などについての理解を深めることができるように記述しています。

『日本大学FDガイドブック』活用例

『Teaching Guide』
FD活動（研修会など）及び新任教員採用時に，日本大学における“学び”について日本大学の教職員としての共通認識・理解を醸成することを目的とし，本ガイドブックを使用する。

『Learning Guide』
新入生ガイダンスなどで履修方法等の具体的な説明を行う前に，『学部要覧』等と併せて本ガイドブックを使用し，日本大学における“学び”などの概略を解説する。

授業改善のための ティーチングティップスの収集と情報提供

連載第１回

日本大学FD推進センター基本計画（中期計画）の一つに「授業改善のためのティーチングティップスの収集と情報提供に向けた検討」が掲げられたことを受け，全学ＦＤ委員会ＦＤ広報プロジェクトでは平成23年度活動計画の中にこの課題を位置づけ，検討を開始しました。 折しも，本NEWSLETTERがこのたび創刊されたことを機に，標記テーマをその連載トピックとすることにより学内外に向けた情報提供を図ることとしました。次号以降では，各部科校において展開されている工夫された授業形態の具体例や学習支援の方法等を取り上げ，特に受講生にとって有益な授業の視点から順次記事として紹介していく予定です。

連載の初回に当たり，ここでは，ティーチングティップスの基本的な考え方について略記します。ティーチングティップスとは，授業の単なるマニュアル・教授法を意味するものではなく，授業改善のためのヒントや工夫を示唆する性格のものであって，高等教育に携わる経験年数を問わず，全ての教員にとって教育効果のより高い授業を目指すための参考となるような汎用性をもたせることが必要と思われます。ティーチングティップスの収集と情報提供をとおし，“学ぶ意欲と面白さ”を受講生から引き出すことのできる「日本大学版ティーチングティップス」の醸成に繋がることを目指します。　（文理学部教授　森　和紀）

学生の視点から FD を考える

―― 文理学部における学生 FD チームの発足 ――

少子化に伴う大学全入時代を迎え，大学入学者の質保証を入試によって行うことが困難になると共に，大学での教育方法の見直し，及び各教員の教育能力の向上が一層求められることとなりました。中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」（平成20年12月24日）において，「学習意欲や目的意識の希薄な学生に，主体的に学ぶ姿勢・態度を持たせることが重要であり，双方向型授業や能動的活動に参加する機会を設けるなど，各大学は改めて教育方法の点検・見直しをすることが必要である」と謳われて以来，特に学生と密接にコミュニケーションをとりながら展開する「双方向型」授業の必要性が認識されるようになってきました。各大学で双方向型授業のあり方を模索していく中で，次第に学生も授業に主体的に参画するようになり，さらに（主に関西の大学においてですが），学生の側から積極的にFD活動に関わるようになってきています。このような動向は，現在では「教員・職員・学生による三位一体のFD活動」と称され，いくつかの大学で推進されています。文理学部においても，平成23年10月に「学生とともに作る授業・学生とともに進めるFD」と題するFD講演会が開催されたことをきっかけとして，学生によるFD活動のチームが発足する運びとなりました。　（文理学部教授　古田智久）

日本大学 FD NEWSLETTER 創刊号
発　行　日：平成24（2012）年４月１日〔年２回（４月，９月）発行〕
発　行　者：日本大学ＦＤ推進センター　センター長 小椰治宣
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24
電話:03-5275-8314　FAX:03-5275-8315
e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp
http://www.nihon-u.ac.jp/about_nu/effort/fd-center/index.html
所管部署：日本大学 本部 学務部教育推進課
企画・編集：全学FD委員会

「日本大学FD NEWSLETTER」に関する御意見や御感想などがありましたら，学務部教育推進課（adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp）へお寄せください。

本ニューズレターに掲載した文章，写真等の無断転載・複製を禁じます。 Copyright（C）Nihon University 2012 All Rights Reserved.